

参加型音楽イベント「ドレミファらんど」の試み

古山典子 (初等教育学科)

Attempt at Participatory Music Event “Do Re Mi Fa-Land”

Noriko KOYAMA (Department of Elementary Education)

抄 録

本稿は、就実大学教育学部初等教育学科古山ゼミナールの3年生9名がワークショップリーダーとなり開催した、参加型音楽イベント「ドレミファらんど」の実践報告である。この活動は概ね4歳から小学校低学年までの子ども30名を対象としたもので、活動内容は「リズム体操」「ハンドベル、トーンチャイム演奏（鑑賞）」「ペープサート『ブレーメンの音楽隊』（鑑賞）」「みんなで合奏！」である。本活動の特徴としては、異年齢の子どもたちが同一の音楽活動に取り組むこと、極力高音質の楽器を選択し、普段触れることの少ない楽器に直接触れる機会とすること、さまざまなレベルの音楽能力をもつ子どもが行う活動として、取組み内容にレベルを設けていること、が挙げられる。保護者のアンケート回答からは、この活動を通して、子どもたちに音楽の楽しさを味わったり音楽への興味・関心を深めること、音楽的な感性・能力を育むこと、協調性やコミュニケーション能力を高めること、集中力や物事に取り組む姿勢を身に付けることを期待していることが明らかとなった。

キーワード：音楽活動、音楽指導法、子ども、音楽能力、地域貢献

I はじめに

保育者や教師を目指す学生たちは、実際に子どもとかかわることでより多くのことを学ぶ。本活動は、古山ゼミナールで音楽教育について研究を行っている3年生9名がワークショップリーダーとなり、参加者である子どもたちとともに音や音楽を楽しむことを目的として、2013年11月30日10時から12時にかけて就実大学 T館6階の「リズム教室」で行った、参加型の音楽イベントである。

4月から始まったゼミナールでは、学生の音楽教育に関する興味関心に基づいて先行研究を検討したり、提示したテーマで研究発表を行うなどしてきたが、これらの理論的な研究と併せて、より実践的な音楽能力や保育・指導力を養うことを目的として、ゼミナールの一環としてこの活動に取り組むこととした。